



2022年11月16日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）が 対談シンポジウム（養老孟司氏×釈徹宗氏）を開催（12月19日） －多死社会における魂と肉体の再生－

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート「2040 独立自尊プロジェクト」は、2022年12月19日（月）14時からMUFG 寄附講座特別授業として対談シンポジウムを開催します。本シンポジウムでは、養老孟司・東京大学名誉教授、釈徹宗・相愛大学学長をお招きし、多死社会における「死」「肉体」「魂」への考え方の変化について、お話を伺います。

つきましては、本シンポジウムの開催について、イベント欄へのご掲載ならびにご取材のほどどうぞよろしくお願い致します。

■開催概要

- ・日時：2022年12月19日（月）14：00～15：30
- ・場所：オンサイト：慶應義塾大学三田キャンパス東館 G-lab ホール
オンライン：Zoom を用いたオンライン配信
- ・主催：慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート「2040 独立自尊プロジェクト」（MUFG 寄附講座特別授業）
- ・対象：どなたでもご参加いただけます。
- ・参加費：無料

- ・申込方法：以下 URL より事前にお申し込みください。
会場参加：<https://kgri2040pj-1219os.peatix.com/>
Zoom 参加：<https://kgri2040pj-1219web.peatix.com/>
- ・締切：2022年12月16日（金）11:00
なお、会場・Zoom 参加ともに、定員に達し次第参加申込を締め切ります。
ご了承のほど、お願い申し上げます。
- ・詳細：KGRI 公式サイト（<https://www.kgri.keio.ac.jp/news-event/133291.html>）
よりご覧いただけます。

■内容

日本では2030年代以降、年間死亡者数が150～160万人台で推移するという多死社会化が予想されている。多死社会においては、現在よりも死に関する議論が活発化し、我々は死をとらえ直す必要性に直面するだろう。死は肉体的なものである一方で、魂と切り離せないものでもあるため、死をとらえ直すことは肉体と魂を再考することでもある。

このシンポジウムでは、解剖により肉体をとおして「死」を考えてきた養老孟司・東京大学名誉教授と、僧侶、宗教学者として宗教や魂をとおして「死」と向き合っている釈徹宗・相愛大学学長とともに、「死」「肉体」「魂」に関する考え方が多死社会ではどのように変わっていきそうか、日本や他の社会における死生観の変遷も交えて議論する。

■プログラム

1. 開会挨拶・演者紹介
2. 対談： 養老孟司（東京大学名誉教授、解剖学者）
 积徹宗（相愛大学学長、宗教学者、僧侶）
 モデレーター：澤井敦（慶應義塾大学法学部教授）
3. ディスカッション
4. 閉会挨拶

・総合司会：鳥谷真佐子（KGRI 特任教授）

■本シンポジウムのお問い合わせ先

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート「2040 独立自尊プロジェクト」事務局

Email : kgri_2040pj[at]info.keio.ac.jp

※発信の際は[at]を@に置き換えてください。

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部、文化部等に送信させていただいております。

【本リリースの配信元】

慶應義塾広報室（豊田）

TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640

Email : m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>